



問われる民主主義と選挙制度——24 東京都知事選

東 京都知事選は7月7日投開票で行われた。立憲民主党の蓮舫参院議員が、2期8年の小池都政の「リセット」を掲げ、「市民と野党の共同候補」として出馬した。しかし、「ネット選挙」を進めた前安芸高田市市長の石丸伸二候補が蓮舫候補を上回る支持を獲得。結局、有効投票数の42.77%の291万8015票を獲得した小池候補が3選を果たした。石丸候補は165万8363票、蓮舫候補は128万3262票。

今回の知事選では、この「対決」がいまいにされ、争点も隠されたうえ、選挙活動そのものを愚弄する動きが公然化し、選挙制度を含め今後への課題を残した。

▼56人の立候補、カネ儲け宣伝も

今回の知事選では、立候補者が56人という多数になったが、その中で「NHKから国民を守る党」が、公営のポスター掲示板を「ジャック」した。

支持者を含め24人の立候補者を立てた同党は、供託金300万円を負担する代わりに、約1万4000カ所の公設掲示板の24人分のスペースの「使用権」を売り出した。1カ所24人分、「購入者」は自由にポスターを貼って宣伝できるとした。期日によって、5000円から2万5000円で、平均1万円とすれば、1万4000カ所で、皮算用では1億4000万円の収入。立花孝志党首は「どこにも違法はない」と主張したが、公然とした目的外使用。掲示板には、「かわいい私の政見放送見てね」とか「目が合いましたね」などと自己のサイトに誘導したり、犬や猫のイラストなど意味不明の宣伝ポスターがあふれた。また、これとは別に、全裸の女性の写真を掲載したポスターも出現、警視庁が警告した。

▼徹底した小池候補の争点隠し

選挙戦で「争点隠し」を徹底したのは小池候補だった。選挙前、旧側近の小島敏郎氏が「カイロ大学卒業は嘘。私はその経歴詐称に加担した…」と記者会見で告白、カイロの同居者、北原百代さんや、長年の支援者、朝堂院大覚氏が「嘘はやめなさい」と主張したが、これには答えず、政策討論会も「公務」を理由に、2回にとどまった。

また、「裏金問題」で批判が強い自民党と一線を画すとして、「無所属」を標榜した。

しかし自民党東京都連は、6月14日、萩生田光一東京都連会長が、①「蓮舫による

共産党主導の革新都政」を絶対阻止、②小池への「全面支援」、③推薦は行わない方向——と総支部長らに通達。積極的に活動した。

選挙選では「実績」を強調、「開発」などの論争は避けた。

▼石丸陣営支えた自民党関係者

新聞を取っていない家庭が増えるなど、既存メディアが影響力を失うなかで、YouTubeや、X、Instagramなどのネット・メディアを駆使した石丸伸二氏が票を集めた。「細かい政策を全く言わないで、自己紹介を言い続けた」(選対事務局長藤川晋之助氏、7月13日朝日新聞)戦略だった。

石丸氏の選対本部長は萩生田氏主宰の「TOKYO 自民党政経塾」の塾長代行・小田全宏氏。小池批判票の分断を図る出馬だったが、これを「しんぶん赤旗」が書いたのは投票日3日前の7月4日。「小池批判の無党派新人」のムードは壊れなかった。

▼統一に、分断・「反共」攻撃

蓮舫候補は、立憲、共産、社民、新社会、市民ネット、みどりの党、みらい会議の都政の野党7党派と、市民連合、前川喜平、浜矩子、宇都宮健児氏ら「市民と野党の共闘で都政転換をめざす呼びかけ人会議」などの選考委員会で選出され、出馬した。しかし、時間的余裕もなく、選対本部は立憲民主党が中心。「統一」「共闘」の体制は未完成で今後への課題を残した。

同時に行われた都議補選9選挙区では、自民党は8区に候補者を立てたが、当選は2議席で、5議席から後退した。

(ジャーナリスト 丸山重威)

次号予告

「法と民主主義」2024年10月号(No.592)

【特集】

新しい政治の展望を探る(仮題)

なんとしても新しい政治の展望を切り開くことが求められている今、短期、中期、長期の視点で「展望」の戦略を探る。9月末に発行の予定です。

●針生誠吉基金●

本誌は、故針生誠吉先生からの多額のご寄付によって、発行を支援していただいております。